2026 年 1 月 20 日
奈良国立大学機構　幼小プロジェクト研修会

世界的に教育課題となっている「幼小移行」。
本研修では、同日に幼稚園と小学校の現場を参観し、
子どもたちの姿から「子どもにとって幼小移行とは何か」
を見つめ直しました。
実際の学びの場に身を置いた参加者同士で語り合うことで、
制度や立場を超えて視野を広げ、子どもを学びの主体と
する視点から「架け橋プログラム」とその先を、
ともに構想していくことを願いました。

本研修について
本研修の目的としては、①参加者自身が移行当事者の視点から架け橋プログラムをとらえること、②異質な他者（異校種・異地域など）との対話により実践者自身にとっての架け橋プログラムの意味をとらえること、③国際的動向を踏まえて幼小移行期を捉えることが挙げられます。

事前に記入するおたずねシートで、自分自身の教育観・価値観・認識の固定化と向き合い、幼稚園・小学校それぞれの保育・教育実践を参観すし、異質な他者と対話を行う中で自分の「当たり前」に気づくこと、そして常に「子ども」という視点から幼小交流をまなざすことで、「架け橋プログラム」の新たな展望がひらかれることを目指しました。

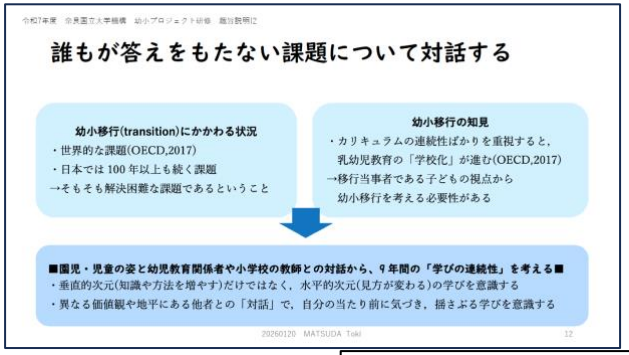
保幼小に限らず、中等教育学校や自治体、大学など多様な立場の方々が参加され、様々な地平から「子どもにとって幼小交流とはなにか」を考える機会となりました。
（参加者：74 名　本園職員：7 名）

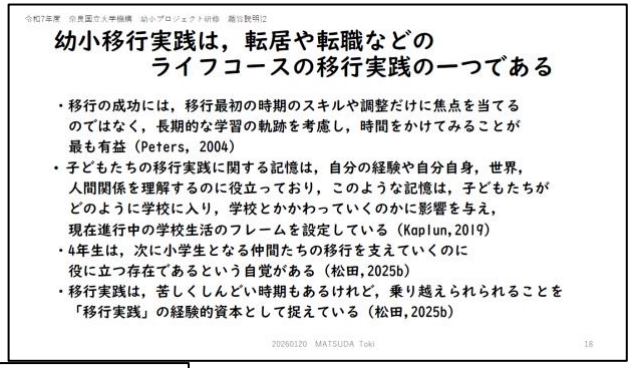
研究概要

1月20 日（火）奈良国立大学機構 幼小プロジェクト研修 日程ご案内

【場所】 奈良女子大学附属幼稚園・附属小学校

【日程】
8:45～　受付　@奈良女子大学附属幼稚園　（参加費 500 円）
9:00～　全体説明　@幼稚園遊戯室
・研修の趣旨説明Ⅰ
9:20～11:15　保育参観　@5 歳児つき組・ほし組）
11:15～　奈良女子大学附属小学校～移動
11:45～　学習参観　@１年月組
12:30～　昼食　@小学校集会室　または　幼稚園遊戯室
・希望者は幼稚園環境参観
・「おたずねシート」記入
13:45～　協議会　@小学校集会室
・保育者・授業者紹介
・研修の趣旨説明Ⅱ
・グループでの対話と共有
15:30　終了
・「おたずねシート」記録
・「ふりかえりシート」記入





研修事前シート―子どもにとって意味のある幼小連携・接続とはなにか―（抜粋）

子どもの不安を和らげることにとどまらず、その子どもの育ちや学びが、幼児から児童へと連続して共有され積み上がっていくよう、書類や教諭間の引き継ぎが強化されると良いと思う。互いに参観したり、4月以降も連絡会をしたり、1ヵ月位出向したりしても良いと思う。

保育教諭と教師が互いの実態や、保育・教育のねらい・計画などを理解し、尊重し合える関係が成立していること。それらを踏まえて子どもの育ちや活動がつながっていくように意識し、保育・教育を進めていく。
子どもにとって幼児期の保育（教育）が小学校の学習の基礎・土台になるように、その時期に応じた活動を取り入れ、育ちを支えていくこと。

小学校を訪れ、児童と関わって遊ぶ機会をできるだけ多くもつことで、憧れや期待、親しみをもてるようになる。
教師同士の交流をもつことで意識が変わると考える。互いを知ろうとする気持ちが何よりも大切だと思う。

幼小それぞれがお互いに特徴を理解し、スムーズに子どもたちが移行できるようにする。また、小学校に対しての不安をなるべく無くし期待をもって小学校に進み、小学校に上がった時になるべくつまずくことがないようにしていくこと。

研修後のふりかえり（抜粋）

まとめなくてよいと初めに言ってもらえて、正解を出そうとするのではなく、自分の感じたことに自信をもっていいんだと安心できました。それはきっと、この幼稚園でも小学校でも同じ空気が流れていて、だからこそ子どもたちも安心して発言できるのだと思います。
話し合いの場で折り紙を持っていたり、かぶりものをしたままの子がいたりしても、話し合いに参加できるならそれでよい。その子なりの落ち着いた参加の仕方が認められている。そういう気持ちをもっていきたいと思います。

幼（こ）・小連携。やらなければいけないけれど、難しさやその意味を捉えにくかったが、今日の公開保育・授業を参観したり協議会の話し合いでその重要性や意義を感じることができた。
自分たちの保育の中でも取り組みたいことや、姿勢もたくさん学んだが、小学校の教諭の方達にも知って欲しいし、考えてもらいたいとも強く思う。それをどのように伝えていくか、共有していくかが大きな課題だが、前向きに探っていきたい。
互いの願いやねらいを知り、共有し、深め合うこと、互いを尊重したい。子どもの姿を一緒に考察し、育ちや大切にしたいことを語り合う場も持ちたい。そこが共通していけば子どもの学びや育ちはつながると考える。

幼小接続・移行について考える機会として今日参加させていただきましたが、保育をみる中で子ども一人ひとりが何を思っているか、考えているのかを、興味をもって関わることの大切さを改めて感じました。興味をもつことが一人ひとりの言葉を引き出すことにつながり、安心して互いの思いを出し合う姿になり、学びの芽になっていくと思いました。幼稚園、小学校が何をするかだけでなく、互いに興味をもつことで、人と人がつながり、関係ができていくのだと思いました。

幼小接続は、お互いのことを知るということが、まずは大切だなと思いました。子どもが考えたい、話したいと思えるような雰囲気作りの大切さも改めて感じました。
小学校への連携をスムーズにするために、まずは小学校を理解し、子どもたちにとってどのようにしたらよいのかを、日々考えながら保育をしていきたいと思います。
子どもが安心して考えたり、話したりできるような雰囲気作りができるように心掛けていきたいなと思います。

研修を終えて…

なぜ小学生になるのだろうか。「大きくなったから」「次のお友達が入園するから」そのような理由が保育現場では飛び交う。社会的・制度的理由も然りある。そしてどのようなステージにおいても「移行」となると、途端に「緊張」「不安」という言葉が語られる。大人になってもさまざまな「移行」を経験する中で、「学びの形態の同一化」「分かってもらえるか」といった大人の視点で語られる「幼小移行」。子どもを当事者として考えることそのものが、今後も続いていく「移行」において子どもの学びを支えるものになると考える。そういった点でも、さまざまな背景をもつ方々と対話し語ることは、さまざまな「当事者にとっての移行」を捉え「幼小移行」をまなざす際に非常に重要なものとなった。